資治通鑑　第 98 巻

令和 3 年 12 月 3 日

【晋紀二十】起著雍涒灘，盡上章淹茂，凡三年。

■東晋、▲前燕、（続国訳漢文大成．経子史部 第 6 巻 123p）

孝宗穆皇帝上之下永和四年（戊申，３４８年）

■**夏，四月**，林邑（ベトナム南部の勢力、既に中部の日南、現・フエあたりを得る）は九真（ベトナム北部、現・タインホアあたり）を寇し，士民の什に八九を殺す。

【後趙の石虎の太子大虐殺】

後趙［太子石宣と石韜の対立、石虎暗殺計画］趙の秦公の**韜**は趙王の**虎**に寵有り，之を立てんと欲すも，太子の**宣**が長なるを以て，猶豫して未だ決せず。**宣**は嘗て旨に忤い，**虎**は怒りて曰く、

「悔いるは**韜**を立てざる也！」

韜は是に由りて益々驕り，堂を太尉府に造り，號して宣光殿と曰い，梁の長さは九丈。**宣**は見て而して大いに怒り，匠を斬り，梁を截ちて而して去る。**韜**は怒り，之を増して十丈に至る。**宣**は之を聞き，幸する所の**楊柸**、**牟成**、**趙生**に謂って曰く、

「凶竪（凶なる小僧）、傲愎（驕り高ぶり）にして乃ち敢て爾り！汝は能く之を殺し，吾は西宮（虎の居る所）に入れば，當に盡く**韜**之國邑を以て分けて汝等に封じん。**韜**が死すれば，**主上**は必ず喪に臨む，吾は因りて大事（主上殺害）を行えば，濟らざる蔑からん矣。」(6-124p)

柸等は許諾す。

後趙［宣は韜を殺し、石虎は宣を虐殺］**秋，八月**，**韜**は夜僚屬と東明觀（鄴の東城の上）に宴し，因りて佛精舍（仏寺）に宿す。**宣**は**楊柸**等をして彌猴梯（小さく長い梯子）に縁して而して入ら使め，**韜**を殺し，其の刀箭を置き而して去る。旦日，**宣**は之を奏し，**虎**は哀驚して氣絕し，之久しく方に蘇える。將に出でて其の喪に臨まんとし，司空の**李農**は諫めて曰く、

「秦公を害する者は未だ何人か知らず，賊は京師に在り，鑾輿は宜しく輕々しく出でざるべし。」

虎は乃ち止め，兵を嚴かにして哀を太武殿に發す。**宣**は往きて**韜**の喪に臨み，哭かず，直言して、

「呵呵」（笑い声）

といい，衾を擧げ使めて尸を觀て，大いに笑いて而して去る。大將軍の記室參軍の**鄭靖**、**尹武**等を收め，將に之に委ねて罪を以てせんとす。**虎**は**宣**が**韜**を殺すと疑い，之を召さんと欲すも，其の入らざるを恐れ，乃ち詐りて言う、

「其の母の**杜后**は哀しみ過ぎて危憊（悲しみ衰弱）なり」

宣は疑わ見ると謂わず，入りて中宮に朝し，因りて之を留める。建興の人の**史科**は其の謀を知り，之を告げる。**虎**は**楊柸**、**牟成**を收め使むも，皆な亡げ去る。**趙生**を獲りて，之を詰め，具さに服す。**虎**は悲しみ怒ること彌々甚だしく，**宣**を席庫（席を藏する庫）に囚え，鐵環を以て其の頷を穿ちて而して之を鏁ぎ，**韜**を殺した刀箭を取り，其の血を舐り，哀號は宮殿を震動す。**佛圖澄**は曰く、

「**宣**、**韜**は皆な陛下之子なり，今**韜**の為に**宣**を殺せば，是れ禍を重ねる也。**陛下**が若し慈恕を加えれば，福祚は猶ほ長からん。若し必ず之を誅すれば，**宣**は當に彗星と為りて下は鄴宮を掃うべし。」

虎は從わず。柴を鄴北に積み，標を其の上に樹て，標末に鹿盧を置き，之を穿つに繩を以てし，梯を柴積に倚す。**宣**を其の下に送り，**韜**が幸する所の宦者の**郝稚**、**劉霸**をして其の髮を抜き，其の舌を抽き，之を

牽きて梯に登ら使む。**郝稚**は繩を以て其の頷を貫き，鹿盧（轆轤）をもて絞上す。**劉霸**は其の手足を斷ち，眼を斫り腸を潰し，**韜**之傷の如し。四面より火を縱ち，烟炎は天に際り，**虎**は昭儀已下數千人を從えて中臺（銅雀台）に登りて以て之を觀る。火は滅し，灰を取り諸門の交道（十字路）の中に分置す。其の妻子九人を殺す。**宣**の小子は才かに數歲，**虎**は素より之を愛し，之を抱きて而して泣き，之を赦さんと欲し，其の大臣は聽かず，抱中に就きて取りて而して之を殺す。兒は**虎**の衣を挽きて大いに叫び，帶を絕つに至り，**虎**は此に因りて發病す。又た其の后の**杜氏**を廢して庶人と為し，其の四率（東宮に左右前後あり）已下三百人，宦者五十人を誅し，皆な車裂き節解し，之を漳水に弃てる。其の東宮を洿にし以て猪牛を養う。東宮の衛士十餘萬人は皆な凉州（金城しか持たず、辺鄙な境）に謫戍す。是より先，散騎常侍の**趙攬**は**虎**に言って曰く、「宮中に將に變有らんとし，宜しく之に備うべし。」

宣が**韜**を殺すに及び，**虎**は其の知りて而して告げざるを疑い，亦た之を誅す。

【司馬昱は殷浩・荀羨で桓溫に対抗】

■［朝廷は蜀平定の桓溫を恐れる］朝廷は蜀を平らげる之功を論じ，豫章郡を以て**桓溫**に封じんと欲す。尚書左丞の**荀蕤**は曰く、(6-125p)

「**溫**が若し河、洛を復た平らげれば，將に何を以て之を賞するや？」

乃ち**溫**に征西大將軍、開府儀同三司を加えて，臨賀郡公に封じる。譙王の**無忌**に前將軍を加える。**袁喬**を龍驤將軍とし，湘西伯に封じる。**蕤**は，**崧**（荀崧は荀藩の弟、永嘉の禍に相與に行台を密かに建て、建興の初め宛に鎮す）之子也。

■［桓溫に対抗上殷浩を登用］**溫**は既に蜀を滅ぼし，威名は大いに振い，朝廷は之を憚る。會稽王の**昱**は揚州刺史の**殷浩**が盛名有り，朝野が推服するを以て，乃ち引いて心膂と為し，與に朝權に參綜せしめ，以て**溫**に抗せんと欲す，是に由りて**溫**と寢く相い疑貳す。

■［王羲之は桓溫との融和を説くも従わず］**浩**は征北長史の**荀羨**、前江州刺史の**王羲之**が夙に令名有るを以て，**羨**を擢して吳國內史と為し，**羲之**を護軍將軍と為し，以て羽翼と為す。**羨**は，**蕤**之弟、**羲之**は，**導之**從子也。**羲之**は以爲らく內外が協和し，然る後に國家は安んじる可しとす，**浩**及び**羨**に勸めて、

「**溫**と隙を構えるは宜しからず。」

とするも，**浩**は從わず。

▲［慕容皝は雋に遺言して死す］燕王の**皝**は疾有り，世子の**雋**を召いて之に屬して曰く、

「今中原は未だ平らかならず，方に賢杰（賢人傑物）に資り以て世務を經すべし。**恪**は智勇は兼ね濟り，才は重きに任ずるに堪える，汝は其れ之に委ねれば，以て吾が志を成さん！」

又た曰く、

「**陽士秋**（陽騖の字）は士行高潔にして，忠幹は貞固なり，大事を托する可く，汝は善く之を待つべし！」

九月，丙申（１７日），薨ず（年52）。

後趙［後趙の皇太子選び混沌］趙王の**虎**は太子を立てるを議し，太尉の**張舉**は曰く、

「燕公の**斌**は武略有り，彭城公の**遵**は文德有り，惟た**陛下**の擇ぶ所なり。」

虎は曰く、

「卿の言は正に吾が意を起こすなり。」

戎昭將軍（虎は左右戎昭將軍・曜武将軍を置き、左右衛の上とす）の**張豺**は曰く、
「燕公の母は賤しく，又た嘗て過（張賀度を殺そうと謀る 96 巻成帝咸康六年）有り。彭城公の母は前に**太子**の事を以て廃せられ（遵の母の鄭氏の廃すは 95 巻咸康三年），今之を立てるは，臣は恐れるに微恨無き能わざるを。**陛下**は宜しく審（つまびら）かに之を思うべし。」
初め，**虎**之上邽（現・天水市秦州区、清水県）を抜く（94 巻成帝咸和四年）也，**張豺**は前趙主の**曜**（劉曜）の幼女の**安定公主**を獲る，殊色（優れた容貌）有り，**虎**に納れ，**虎**は之を嬖（寵愛）し，**齊公世**を生む。**豺**は**虎**の老病を以て，**世**を立てて嗣と為さんと欲し，**劉氏**が太后と為り，己が政を輔けるを得るを冀（こいねが）い，乃ち**虎**に說いて曰く、
「**陛下**は再び**太子**を立てるも，其の母は皆な倡賤より出でる，故に禍亂は相い尋ぐ。今宜しく母は貴く子の孝なる者を擇びて之を立てるべし。」
虎は曰く、
「卿は言う勿かれ，吾は**太子**の處を知る矣。」
虎は再び群臣と東堂に議す。**虎**は曰く、
「吾は純灰の三斛を以て自ら其の腸（はらわた）を滌（あら）わんと欲す，何爲れぞ專ら惡子を生ずるや，年は二十を逾え輒ち父を殺さんと欲すなり！今**世**は方に十歲，其の二十の比（ころ）には，吾は已に老いん矣。」
乃ち**張舉**、**李農**と議を定め，公卿をして上書して**世**を立てて**太子**と為すを請わ令む。大司農の**曹莫**は肯えて署名せず，**虎**は**張豺**をして其の故を問わ使め，**莫**は頓首して曰く、
「天下は重き器なり，宜しく少を立てるべからず，故に敢えて署せず。」
虎は曰く、
「**莫**は，忠臣也，然るに未だ**朕**の意に達せず。**張舉**、**李農**は**朕**の意を知り矣，之を諭さ令む可し。」
遂に**世**を立てて**太子**と為し，**劉昭儀**を以て后と為す。**(6-126p)**

▲［慕容儁の即位］冬，十一月，甲辰（２６日），燕の**文明王**（慕容皝）を葬す。世子の**儁**（字は宣英、皝の第二子）は即位し，境内に赦し，遣使して建康に詣りて喪を告げる。弟の**交**を以て左賢王と為し，左長史の**陽騖**を郎中令と為す。 十二月，左光祿大夫、領司徒、錄尚書事の**蔡謨**を以て侍中、司徒と為す。**謨**は上疏して固く讓り，親する所に謂って曰く、
「我が若し司徒に為れば，將に後代の曬（わら）う所と為る，義は敢て拜せざる也。」

孝宗穆皇帝上之下永和五年（己酉，３４９年）

■春，正月，辛未（元嘉曆朔は戊寅）朔，大赦す。
後趙［石虎皇帝即位と梁犢の反乱］趙王の**虎**は**皇帝**に即位し，大赦し，改元して太寧とし，諸子は皆な爵を進めて王と為す。故の東宮の高力（石宣は多力の士を選びて東宮に配置、督将を配す）等の萬餘人は凉州に謫戍し，行きて雍城（扶風の雍県城、現・陝西省宝鶏市あたり）に達し，既に赦の例に在らず，又た雍州刺史の**張茂**に敕して之を送らしめ，**茂**は皆な其の馬を奪いて，之をして歩して鹿車（鹿一頭の小車）を推し，糧を戍所に致さ使む。高力の督の定陽の**梁犢**は衆心之怨むに因りて，亂を作し東に歸らんと謀り，衆は之を聞き，皆な踴抃（勇躍して喜ぶ）し大呼す。**犢**は乃ち晉の征東大將軍を自稱し，衆を帥いて攻めて下辨（現・隴南市成県）を抜く、安西將軍の**劉寧**は安定より之を擊ち，**犢**の敗る所と為る。高力は皆な多力にして善く射て，一當は十餘

人，兵甲無しと雖も，民の斧を掠め，一丈の柯（斧の柄）を施し，攻めて戦うこと神の若く，向かう所崩潰す。戍卒は皆な之に隨い，攻めて郡縣を陷とし，長吏、二千石を殺し，長驅し而して東し，長安に至る比おい，衆は已に十萬となる。樂平王の**苞**は鋭を盡くして之を拒み，一戰し而して敗る。**犢**は遂に東して潼關に出で，進みて洛陽に趣く。趙主の**虎**は**李農**を以て大都督と為し、大將軍の事を行わしめ，衛軍將軍の**張賀度**等步騎十萬を統べて之を討たしめ，新安（河南軍に属す県、河南省河洛道新安県、現・洛陽市新安県）に戰い，**農**等は大いに敗る。洛陽に戰い，又た敗れ，退きて成皋（現・鄭州市滎陽市汜水鎮西北）に壁す。

後趙［病床の石虎を姚弋仲は詰問、梁犢を誅殺］**犢**は遂に東に滎陽（武帝二年河南郡を分けて滎陽郡を置く）、陳留諸郡を掠め，**虎**は大いに懼れ，燕王の**斌**を以て大都督と為し，中外諸軍事を督さしめ，冠軍大將軍の**姚弋仲**、車騎將軍の**蒲洪**等を統べて之を討たしむ。**弋仲**は其の衆八千餘人を將して（灄頭より）鄴に至り，**虎**に見えんを求める。**虎**は病となり，未だ之を見ず，引きて領軍省（領軍將軍の府）に入り，賜わるに己の御する所の食を以てす。**弋仲**は怒り，食わず，曰く、

「**主上**は我を召して來たりて賊を擊たしむ。當に面のあたり見て方略を授けるべし，我は豈に食の為に來たる邪！且つ**主上**は我を見ず，我は何を以て其の存亡を知る邪？」

虎は疾を力めて之に見え，**弋仲**は**虎**を讓めて曰く、

「兒は死して，愁うる邪？何爲れぞ而して病めるや？兒の幼時は善人を擇びて之を教えず，逆を為すに至ら使む。既に逆を為して而して之を誅し，又た何ぞ愁えん焉！且つ汝は久しく病み，立つ所の兒は幼く，汝が若し愈えずば，天下は必らず亂れん。當に先ず此れを憂い，賊を憂うる勿かれ也！（6-127p）**犢**等は窮困して歸るを思い，相い聚りて盜を為し，過ぐる所は殘暴し，何ぞ能く至る所あらん！老羌(姚弋仲自身)は汝が為に一擧して之を了（決）せん！」

弋仲は情（続は性とす）は狷直（胸襟狭窄，性情急躁）にして，人は貴賤と無く皆な之を「汝」といい，**虎**は亦た之を責めず，坐に於いて使持節、侍中、征西大將軍を授け、賜わるに鎧馬を以てす。**弋仲**は曰く、

「汝は老羌が賊を破るに堪えるや否やを看るや？」

乃ち鎧を被りて馬に庭中にて跨がり，因りて馬を策して南に馳せ，辭せず而して出でる。遂に**斌**等と**犢**を滎陽に擊ち，大いに之を破り，**犢**の首を斬り而して還り，其の餘黨を討ち，盡く之を滅す。**虎**は**弋仲**に命じて劍履して殿に上り，入朝して趨せず，進めて西平郡公に封ず。**蒲洪**を侍中、車騎大將軍、開府儀同三司、都督雍、秦州諸軍事、雍州刺史と為し，進めて略陽郡公に封ず。

後趙始平（漢の平陵を晉は改名、關中道興平県、現・咸陽市興平市）人の**馬勖**は兵を聚めて將軍を自稱して，趙の樂平王の**苞**は討ちて之を滅ぼし，三千餘家を誅す。

■**夏，四月**，益州刺史の**周撫**、龍驤將軍の**朱燾**は出でて**范賁**（前巻三年に始まる）を擊ち，之を斬り，益州は平らぐ。

■▲詔して謁者の**陳沈**を遣わして燕に如き，**慕容皝**を拜して使持節、侍中、大都督、督河北諸軍事、幽、平二州牧、大將軍、大單于、燕王と為す。

■**桓溫**は督護の**滕畯**を遣わして交、廣之兵を帥いて林邑王の**文**を盧容（日南郡の県、安南の占城の東南、現・承天順化省 順化市北部、フエ）に擊ち，**文**の敗る所と為り，退きて九真（ベトナム北部の郡）に屯す。

【石虎の病と崩御を巡る混乱】

後趙［石虎の病悪化と燕王の斌の輔政］乙卯（９日），趙王の**虎**の病は甚だしく，彭城王の**遵**を以て大將

軍と為し，關右に鎮ぜしむ。燕王の**斌**は丞相と為り，尚書事を錄せしむ。**張豺**を鎮衛大將軍、領軍將軍、吏部尚書と為す（文武の実権を付す）。幷びに遺詔を受けて政を輔けしむ。

後趙［劉后と張豺は斌を失脚させる］**劉后**は**斌**の輔政を惡み，**太子**に利あらずを恐れ，**張豺**と之を去らんことを謀る。**斌**は時に襄國に在り，遣使して詐りて**斌**に謂って曰く、

「**主上**の疾いは已に漸く翁（お）（続は癒とす）こり，王は獵者を須（ま）ち，小し停まる可き也。」

斌は素より獵を好み，酒を嗜み，遂に獵に留まりて，且つ酒を縱（ほしいまま）にす。**劉氏**は**豺**と因りて矯詔して**斌**は忠教之心無きを稱し，免官して第に歸らしめ，**豺**の弟の**雄**をして龍騰の五百人を帥いて之を守ら使む。

後趙［石虎は遵に会えず］乙丑（１９日），**遵**は幽州より鄴に至る。敕して朝堂に拜を受け，禁兵三萬を配して之を遣り，**遵**は涕泣し而して去る。是の日，**虎**の疾いは小しく瘳（い）え，問う、

「**遵**は至るや未だや？」

左右は對えて曰く、

「去りて已に久し矣。」

虎は曰く、

「恨むらくは之を見ざることを！」

後趙［石虎は燕王斌を待つ、張豺は斌を殺害］**虎**は（大武殿の）西閣に臨み，龍騰中郎二百餘人は列びて前に拜す。**虎**は問う。

「何を求めるや？」

皆な曰く、

「聖體は安からず，宜しく**燕王**をして入りて宿衛し，兵馬を典ら令むべし。」

或は言く、

「乞う**皇太子**と為せ。」

虎は曰く、

「**燕王**は內に在らず邪？召して以て來たるべし！」

左右は言う、

「王は酒して病み，入る能わず。」

虎は曰く、(6-128p)

「促（すみや）かに輦を持ちて之を迎えん，當に璽授を付すべし。」

亦た竟に行く者無し。尋いで惛眩し而して入る。**張豺**は**張雄**をして矯詔して**斌**を殺さ使む。

後趙戊辰（２２日），**劉氏**は復た矯詔して**豺**を以て太保、都督中外諸軍，錄尚書事と為し，**霍光**の故事の如し。侍中の**徐統**は嘆じて曰く、

「亂は將に作さんとす矣，吾は之に預るを為す無し。」

藥を仰ぎ而して死す。

後趙［石虎卒し皇后劉氏の称制］己巳（２３日），**虎**は卒し，太子の**世**は即位し，**劉氏**を尊して皇太后と為す。**劉氏**は朝に臨みて稱制し，**張豺**を以て丞相と為す。**豺**は辭して受けず，彭城王の**遵**、義陽王の**鑒**を以て左右の丞相と為し，以て其の心を慰さめんと請い，**劉氏**は之に從う。

後趙**豺**は太尉の**張舉**と司空の**李農**を誅せんと謀る，**舉**は素より**農**と善く，密かに之を告げる。**農**は廣宗に奔り，乞活（李惲・田徽の餘衆で永嘉以西に屯據する）數萬家を帥いて上白（直隷省大名道威県、現・邢台市威県）を保つ。**劉氏**は**張舉**をして宿衛の諸軍を統べて之を圍ま使む。**豺**は**張離**を以て鎮軍大將軍と為し，中外の諸軍事

を監ぜしめ，以て己の副と為す。

【石遵の挙兵と即位】

後趙［石遵は姚弋仲らに擁立される］彭城王の**遵**は河内に至り，喪を聞く。**姚弋仲**、**蒲洪**、**劉寧**及び征虜將軍の**石閔**、武衛將軍の**王鸞**等は**梁犢**を討ちて還り，**遵**に李城（河内の平皐県、河南省河北道温県、現・焦作市温県）にて遇い，共に**遵**を說いて曰く、

「**殿下**は長にして且つ賢なり，**先帝**も亦た**殿下**を以て嗣と為す意有り（虎が張擧の言に従わんとした事）。正に末年に惛惑するを以て，**張豺**の誤まる所と為る。今**女主**は朝に臨み，奸臣は事を用い，上白は相い持ちて未だ下らず，京師の宿衛は空虚にして，**殿下**が若し**張豺**之罪を聲あげ，鼓行し而して之を討てば，其れ誰か門を開き戈を倒にし而して**殿下**を迎える者なり！」

遵は之に從う。

後趙［石遵は挙兵して張豺らを誅殺し即位］五月（續は無し），**遵**は李城より擧兵し，還りて鄴に趣き，洛州刺史の**劉國**は洛陽之衆を帥いて往きて之に會す。檄は鄴に至り，**張豺**は大いに懼れ，馳せて上白之軍を召く。丙戌（１１日），**遵**は蕩陰に軍し，戎卒は九萬，**石閔**は前鋒と為る。**豺**は將に出でて之を拒まんとし，耆舊、羯士は皆な曰く、

「**彭城王**は喪に來奔す，吾は當に出でて之を迎えるべし，**張豺**の為に城を守る能わざる也！」

城を逾え而して出でる。**豺**は之を斬るも，止める能わず。**張離**は亦た龍騰二千を帥いて，關を斬りて**遵**を迎える。**劉氏**は懼れ，**張豺**を召して入らしめ，之に對して悲哭して曰く、

「**先帝**の梓宮は未だ殯せず，而して禍難は此に至る！今嗣子は沖幼にして，之を將軍に托す，將軍は將に之を若何せん？**遵**に重位を加えんと欲す，能く之を弭（ゆはず、弓の留め）めん乎？」

豺は惶怖し出る所を知らず，但だ云う、

「唯唯」。

乃ち詔を下して，**遵**を以て丞相と為し，大司馬、大都督を領し、中外の諸軍を督し，尚書事を錄さしめ，黃鉞、九錫を加える。己丑（１４日），**遵**は安陽亭（安陽県の都亭、河南省河北道安陽県、現・安陽市）に至り，**張豺**は懼れ而して出で迎え，**遵**は命じて之を執る。庚寅（１５日），**遵**は甲を擐き兵を曜かし，鳳陽門（鄴城南門）より入り，太武の前殿に升り，擗踴（心を打ちて踊る）して哀を盡くし，退きて東閣に如く。**張豺**を平樂市（鄴都にあり）に斬り，其の三族を夷らぐ。**劉氏**の令を假りて曰く、

「嗣子は幼沖にして，**先帝**の私恩を授ける所，皇業は至重にして，克く堪える所に非らず，其れ**遵**を以て位を嗣がしめん。」(6-129p)

是に於いて**遵**は即位し，大赦し，上白之圍みを罷む。辛卯（１６日），**世**を封じて譙王と為し，**劉氏**を廢して**太妃**と為し，尋いで皆な之を殺す。**李農**は來たりて罪に歸し，其の位に復せ使む。母の**鄭氏**（鄭后廃せられること 95 巻成帝咸康三年にあり）を尊して**皇太后**と為し，妃の**張氏**を立てて**皇后**と為し，故の燕王の**斌**の子の**衍**を**皇太子**と為す。義陽王の**鑒**を以て侍中、太傅と為し，沛王の**沖**を太保と為し，樂平王の**苞**を大司馬と為し，汝陰王の**琨**を大將軍と為し，武興公の**閔**を都督中外諸軍事、輔國大將軍と為す。

後趙［鄴中は暴風で消失］甲午（１９日），鄴中は暴風にて樹は拔け，雷は震え，雨雹は大きさ盂升の如し。太武輝華殿は灾あり，及び諸門觀閣は蕩然として餘無く，乘輿服御，燒ける者が太半，金石は皆な盡き，火は月餘にして乃ち滅す。

後趙［石沖は挙兵し討伐される］時に沛王の**沖**は薊に鎮し，**遵**が**世**を殺して自立するを聞き，其の僚佐

に謂って曰く、
「**世**は**先帝**之命を受け，**遵**は輒ち廃し而して之を殺す，罪は焉より大なるは莫し！其れ内外に敕して戒厳し，孤は將に親ら之を討たん。」
是に於いて寧北將軍の**沐堅**を留めて幽州に戍せしめ，衆五萬を帥いて薊より南下し，檄を燕、趙に傳え，所在は雲集す。常山に至る比おい，衆は十餘萬にして，苑郷（直隷省大名道任県、現・邢台市任沢区）に軍す。**遵**の赦書に遇いて，**沖**は曰く、
「皆な吾が弟也。死者は復た追う可からず，何爲れぞ復た相い殘す乎！吾は將に（薊に）歸らんとす矣！」
其の將の**陳暹**は曰く、
「彭城は篡弑して自ら尊び，罪は大爲り矣！王は旆を北にすと雖も，臣は將に南に轅せんとす。京師を平らげ，彭城を擒とするを俟ちて，然る後に大駕を奉迎せん。」
沖は乃ち復た進む。**遵**は馳せて**王擢**を遣わし書を以て**沖**を喩し，**沖**は聽かず。**遵**は武興公の**閔**及び**李農**等をして精卒十萬を帥いて之を討た使め，平棘（直隷省保定道欒城県、現・石家荘市欒城区）に於いて戰い，**沖**の兵は大いに敗れる。**沖**を元氏（直隷省保定道元氏県、現・石家荘市元氏県）に獲り，死を賜い，其の士卒三萬餘人を坑うめにす。
後趙武興公の**閔**は**遵**に言って曰く、
「**蒲洪**は，人杰（傑）也。今**洪**を以て關中に鎮せしめば，臣は秦、雍之地が復た國家之有に非ざるを恐れる。此れは**先帝**の臨終之命と雖も，然るに**陛下**は踐祚し，自ら宜しく圖を改めるべし。」
遵は之に從い，**洪**の都督を罷め，餘は前制の如し。■**洪**は怒り，枋頭（95 巻成帝咸和八年に屯す）に歸り，遣使して來降す。

【前燕・東晋は石氏内乱に乗じる】

▲［慕容霸は雋に趙攻撃を進言］燕の平狄將軍の**慕容霸**は燕王の**雋**に上書して曰く、
「**石虎**は凶を窮め暴を極め，天之弃てる所なり，餘燼は僅かに存し，自ら相い魚肉（磨り潰す）す。今中國は倒れ懸かり，仁恤を企望す，若し大軍にして一振りすれば，勢いは必ず戈を投ぜん。」
北平太守の**孫興**は亦た表して言う、
「**石氏**は大亂す，宜しく時を以て進みて中原を取るべし。」
雋は新たに大喪（虓の喪）に遭うを以て，許さず。**霸**は馳せて龍城に詣り，**雋**に言って曰く、
「得難く而して失い易き者は，時也。萬一にも**石氏**が衰え而して復興すれば，或いは英雄有りて其の成資（已成の資）に據れば，豈に惟だ此の大利を失うのみ，亦た恐らくは更に後患と為らん。」
雋は曰く、
「鄴中は亂れると雖も，**鄧恒**は樂安（続の安樂は×）に據り，(6-130p) 兵は強く糧は足る，今若し趙を伐てば，東道は由る可からざる也，當に盧龍（直隷省津海道盧龍県、現・秦皇島市盧竜県）に由るべし。盧龍は山徑にして險狹なり，虜は高きに乘りて要を斷ち，首尾は患いと為り，將に之を若何せん？」
霸は曰く、
「**恒**は**石氏**の為に拒み守らんと欲すと雖も，其の將士は家を顧み，人々は歸志を懷き，若し大軍が之に臨めば，自然に瓦解せん。臣は請う**殿下**の為に前驅し，東に徒河に出でて，潜かに令支に趣き，其の不意に出でん，彼が之を聞けば，勢いは必ず震駭せん。上は閉門して自ら守るに過ぎず，下は城を弃てて逃潰するを免れず，何ぞ我を禦く暇あらん哉！然らば則ち**殿下**は以て安歩し而して前む可し，復た留難無から

ん矣。」

雋は猶豫して決せず，以て五材將軍（燕の置く所）の**封弈**に問い，對えて曰く、

「用兵之道は，敵強ければ則ち智を用い，敵弱ければ則ち勢いを用いるべし。是の故に大を以て小を呑み，猶ほ狼之豚を食うがごとき也。治を以て亂を易えるは，猶ほ日之雪を消すがごとき也。**大王**は上世より以來，德を積み仁を累ね，兵は強く士は練ず。**石虎**は其の殘暴を極め，死して未だ瞑目せず，子孫は國を爭い，上下は乖亂す。中國之民は，塗炭に墜ち，頸を廷べて踵を企て以て振拔を待つ，**大王**が若し兵を揚げて南に邁き，先ず薊城を取り，次に鄴都を指し，威德を宣耀し，遺民を懷撫すれば，彼は孰か老を扶け幼を提げて以て**大王**を迎えざらんや？凶黨は將に旗を望みて冰のごとく碎け，安んぞ能く害を為さん乎！」

從事中郎の**黃泓**は曰く、

「今太白は天を經て（金星が昼間見える），歲（木星）は畢（28 宿の 1）の北に集まり，天下は主を易え，陰國は命を受ける，此れは必然之驗也，宜しく速かに師を出し，以て天意を承けん。」

折沖將軍の**慕輿根**は曰く、

「中國之民は**石氏**之亂に困り，咸な主を易えて以て湯火之急を救わんを思う，此くは千載の一時なり，失う可からざる也。**武宣王**（慕容廆の諡）より以來，賢を招き民を養い，農を務め兵を訓え，正に今日を俟つ。今時に至るも取らざれば，更に復た顧慮するは，豈に天意の未だ海內を平定せ使めんと欲せざる邪，將た**大王**は天下を取らんと欲せざる也？」

雋は笑い而して之に從う。**慕容恪**を以て輔國將軍と為し，**慕容評**を輔弼將軍と為し，左長史の**陽騖**を輔義將軍と為し，之を「三輔」と謂う。**慕容霸**を前鋒都督、建鋒將軍（初めて置く）と為す。精兵二十餘萬を選び，武を講じ戒嚴して，進取之計を為す。

後趙六月，趙王の**虎**を顯原陵に葬し，謚して**武帝**と曰い，廟號を**太祖**とす。

■［趙の亂に呼応して褚裒は北伐企画］**桓溫**は趙の亂を聞き，出でて安陸（湖北省江漢道安陸県、現・孝感市安陸）に屯し，諸將を遣わして北方を經營せしむ。趙の揚州刺史の**王浹**は壽春を舉げて降り，西中郎將の**陳逵**は進みて壽春に據る。征北大將軍の**褚裒**（京口に鎮す）は上表して趙を伐つを請い，即日戒嚴し，直ちに泗口を指し，朝議は、

「**裒**の事任は貴重（裒太后の父）なり、深く入るは宜しからず，宜しく先ず偏師を遣わすべし。」

と以てし、**裒**は奏して言う、

「前に已に前鋒督護の**王顗之**等を遣わして徑ちに彭城に造らしめ，(6-131p) 後に督護の**棗嶷**を遣わして進みて下邳に據らしむ。今宜しく速かに發し，以て聲勢を成さん。」

秋，七月，**裒**に征討大都督を加え，徐、兗、青、揚、豫五州諸軍事を督さしめ，**裒**は衆三萬を帥いて，徑ちに彭城に赴く，北方の士民の降附する者は日に以て千計りなり。

■［北伐の是非の議論］朝野は皆な以て爲す、

「中原は期を指して復す可し」

と，光祿大夫の**蔡謨**は獨り親する所に謂って曰く、

「胡の滅びるは誠に大慶と為る，然るに恐らくは更に朝廷之憂いを貽さん。」

其の人は曰く、

「何を謂う也？」

謨は曰く、

「夫れ能く天に順いて時に乗じ，群生を艱難より濟う者は，上聖と英雄とに非ざれば爲す能わざる也，自餘は則ち德を度り力を量るに若くは莫し。今日之事を觀るに，殆んど時賢の及ぶ所に非ず，必ず將に分表を經營（自己の分を越える経営）し，民を疲らせ以て逞しくせんとす。既に而して（財は殫きの前にくるべし）材略は疏短にして，能く心を副えず，財は殫き力は竭き，智勇は俱に困しむ，安んぞ憂いは朝廷に及ばざるを得る乎！」

■［褚裒は李農に敗れ遺民二十餘万は尽きる］魯の郡民の五百餘家は相い與に兵を起こして晉に附き，援を**褚裒**に求め，**裒**は部將の**王龕**、**李邁**を遣わして鋭卒三千を將して之を迎えしむ。趙の南討大都督の**李農**は騎二萬を帥いて**龕**等と代陂（山東省濟寧道滕県、現・棗莊市滕州市）に戰い，**龕**等は大いに敗れ，皆な趙に沒す。八月，**裒**は退きて廣陵に屯す。**陳逵**は之を聞き，壽春の積聚を焚き，城を毀てて遁げ還る。**裒**は上疏して自ら貶するを乞い，詔して許さず，**裒**に命じて還りて京口に鎮ぜしめ，征討都督を解く。時に河北は大いに亂れ，遺民二十餘萬口は河を渡りて來たりて歸附せんと欲し，**裒**が已に還るに會して，威勢は接せず，皆な能く自ら拔かず，死亡して略ぼ盡きる。

後趙［趙の石苞は無謀］趙の樂平王の**苞**は關右之衆を帥いて鄴を攻めんと謀り，左長史の**石光**、司馬の**曹曜**等は固く諫め，**苞**は怒り，**光**等百餘人を殺す。**苞**は性は貪に而して無謀なり，雍州の豪杰は其の成る無しを知り，幷びて遣使して晉に告げ，梁州刺史の**司馬勛**（続は司馬勲、宣帝の弟の子濟南王遂の曾孫）は衆を帥いて之に赴く。

前涼［張重華は索振の諫めに従う］**楊初**（武都の氐王）は趙の西城を襲い，之を破る。九月，凉州の官屬は共に**張重華**を上して丞相、凉王、雍、秦、凉三州牧と為す。**重華**は屢々錢帛を以て左右の寵臣に賜う。又た博弈を喜び，頗る政事を廢す。從事（続は徵事とす、涼の官職）の**索振**は諫めて曰く、

「**先王**は夙夜勤儉し以て府庫を實たし，正に仇恥は未だ雪がず，志は海內を平らげんとする故也。**殿下**は位を嗣ぐ之初めは，强寇（趙）の侵逼（侵入）するや，重餌之故に賴りて，戰士の死力を得，僅かに社稷を保つ。今蓄積は已に虛しく而して寇仇は尚ほ在り，豈に輕々しく耗散する有り，以て無功之人に與える可けん乎！昔漢の**光武**は躬ら萬機を親らし，章奏は闕に詣れば，報ずるに日を終えず，故に能く中興之業を隆んにす。今章奏は停滯し，動もすれば時月（三月を一時となし三旬を一月となす）を經て，下情は上に通じるを得ず，沉冤（沈淪した冤罪）は囹圄に困しみ**(6-132p)**，殆んど明主之事に非ざる也。」

重華は之を謝す。

■［司馬勛は趙の長安近辺を犯して帰る］**司馬勛**は駱谷を出で，趙の長城の戍（司馬望・鄧艾が羌維を禦ぐ所、陝西省關中道盩厔県、現・西安市周至県）を破り，懸鉤（陝西省懸鉤県）に壁す，長安を去ること二百里，治中の**劉煥**をして長安を攻め使め，京兆太守の**劉秀離**を斬り，又た賀城を拔く。三輔の豪杰は多く守令を殺して以て**勛**に應ずること，凡そ三十餘壁，衆は五萬人。趙の樂平王の**苞**は乃ち鄴を攻める之謀を輟め，其の將の**麻秋**、**姚國**等をして兵を將いて**勛**を拒ま使む。趙主の**遵**は車騎將軍の**王朗**を遣わして精騎二萬を帥いて**勛**を討つを以て名と為し，因りて**苞**を劫かして鄴に送る。**勛**の兵は少なく，**朗**を畏れ，敢えて進まず。冬，十月，懸鉤を釋て，宛城を拔き，趙の南陽太守の**袁景**を殺し，復た梁州に還る。

【石鑒即位から石閔排除】

後趙［石閔を太子との約束の反故］初め，趙主の**遵**之李城を發する也，武興公の**閔**に謂って曰く、

「努力せよ！事成れば，爾を以て**太子**と為さん。」
既に而して太子の**衍**を立てる。**閔**は功を恃み、朝政を専らにせんと欲し，**遵**は聴さず。**閔**は素より驍勇にして，屢々戦功を立て，夷、夏の宿将は皆な之を憚る。既に都督と為り，内外の兵權を總べ，乃ち殿中の将士を撫循し，皆な奏して殿中の員外将軍，爵關外侯と為す。**遵**は之を疑わず，而して更に善惡を題名し以て之を挫抑し，衆は咸な怨み怒る。中書令の**孟准**、左衛将軍の**王鸞**は**遵**に勧めて稍(やや)**閔**の兵權を奪わしめ，**閔**は益々恨望し，**准**等は咸な之を誅するを勧める。
後趙［石鑒は石遵を殺して即位］十一月，**遵**は義陽王の**鑒**、樂平王の**苞**、汝陽王の**琨**、淮南王の**昭**等を召して入りて**鄭太后**の前にて議す，曰く、
「**閔**の不臣之迹(あと)は漸く著われ，今之を誅せんと欲すが，如何や？」
鑒等は皆な曰く、
「宜しく然るべし！」
鄭氏は曰く、
「李城より兵を還すに，**棘奴**（石閔の小字）無ければ，豈に今日有るや！小さく驕(おご)るとも之を縦(ゆる)せ，何の遽(にわか)に殺す可けんや！」
鑒は出で，宦者の**楊環**を遣わして馳せて以て**閔**に告げしむ。**閔**は遂に**李農**及び右衛将軍の**王基**を劫(おびやか)して密かに**遵**を廃すを謀り，将軍の**蘇彦**、**周成**をして甲士三千人を帥いて**遵**を南臺に執ら使む。**遵**は方に婦人と棋を弾き（両人が碁石の白黒六個を列ねて、交代に弾く），**成**に問いて曰く、
「反する者は誰ぞ也？」
成は曰く、
「義陽王の**鑒**は當に立つ。」
遵は曰く、
「我ですら尚ほ是の如し，**鑒**は能く幾時ぞや！」
遂に之を琨華殿に殺す，幷せて**鄭太后**、**張后**、太子の**衍**、**孟准**、**王鸞**及び上光祿（大夫）の**張斐**を殺す。**鑒**は即位し，大赦す。武興公の**閔**を以て大将軍と為し，武徳王に封じ，司空の**李農**を大司馬と為し，幷せて尚書事を錄せしむ。**郎闓**を司空と為し，秦州刺史の**劉群**を尚書左僕射と為し，侍中の**盧諶**を中書監と為す。

後趙［蒲洪は枋頭にて自立の可否を議論］秦、雍の流民（石虎が咸和四年に劉胤を破り、八年に石生を破りて徙民した民）は相い帥いて西に歸り，路は枋頭に由り（6-133p），共に**蒲洪**を推して主と為し，衆は十餘萬に至る。**洪**の子の**健**は鄴に在り，關を斬り出でて枋頭に奔る。**鑒**は**洪**之逼るを懼れ，計を以て之を遣らんと欲し，乃ち**洪**を以て都督關中諸軍事、征西大将軍、雍州牧と為し、秦州刺史を領せしむ。**洪**は官屬を會して，應に受くべきと不(いな)とを議す。主簿の**程樸**は且く趙と連らなり和し，列國の如く境を分けて而して治せんと請う。**洪**は怒りて曰く、
「吾は**天子**と為るに堪えざる邪？而るに列國と云う乎！」
樸を引きて之を斬る。

■［褚裒死して若き荀羨抜擢］都鄉の元穆侯の**褚裒**は還りて京口に至り，哭聲を聞くこと甚だ多く，以て左右に問い，對えて曰く、

「皆な代陂の死者之家也。」
哀は慚憤して疾を發す。十二月，己酉（７日），卒す。吳國內史の**荀羨**を以て使持節、監徐、兗二州、揚州之晉陵諸軍事、徐州刺史と為し，時に年は二十八，中興の方伯は未だ**羨**の如く之少き者有らず。

【石鑒の胡人大虐殺】
後趙［石鑒は石閔殺害失敗］趙主の**鑒**は樂平王の**苞**、中書令の**李松**、殿中將軍の**張才**をして夜**石閔**、**李農**を琨華殿に攻め使め，克たず，禁中は擾亂す。**鑒**は懼れ，僞りて知らざる者の若く，夜**松**、**才**を西中華門に斬り，幷せて**苞**を殺す。
後趙新興王の**祇**は，**虎**之子也，時に襄國に鎮し，**姚弋仲**、**蒲洪**等と兵を連らねて，檄を中外に移し，共に**閔**、**農**を誅さんと欲す。**閔**、**農**は汝陰王の**琨**を以て大都督と為し，**張舉**及び侍中の**呼延盛**と與に步騎七萬を帥いて分けて**祇**等を討たしむ。
後趙［石閔らが禁中制圧］中領軍の**石成**、侍中の**石啓**、前河東太守の**石輝**は**閔**、**農**を誅さんと謀る。**閔**、**農**は皆な之を殺す。龍驤將軍の**孫伏都**、**劉銖**等は羯士三千を帥いて胡天（石氏の禁中署舍の名）に伏し，亦た**閔**、**農**を誅さんと欲す。**鑒**は中臺に在り，**伏都**は三十餘人を帥いて將に臺に升りて**鑒**を挾みて以て之を攻めんとす。**鑒**は**伏都**の閣道を毀すを見，臨みて其の故を問う。**伏都**は曰く、
「**李農**等は反し，已に東掖門に在り。臣は衛士を帥いて以て之を討たんと欲す，謹んで先ず啓知せん。」
鑒は曰く、
「卿は是れ功臣なり，好く官（天子）の為に力を陳べよ。**朕**は臺上より觀ん，卿は報（閔農を殺す報償）無きを慮る勿かれ也。」
是に於いて**伏都**、**銖**は衆を帥いて**閔**、**農**を攻め，克たず，鳳陽門に屯す。**閔**、**農**は衆數千を帥いて金明門を毀し而して入る。**鑒**は**閔**之己を殺すを懼れ，馳せて**閔**、**農**を招きて，開門して之を內れ，謂って曰く、
「**孫伏都**は反す，卿は宜しく速かに之を討て。」
閔、**農**は攻めて**伏都**等を斬り，鳳陽より琨華に至るまで，尸は橫たわりて相い枕し，流血は渠と成る。內外に宣令し六夷は，敢えて兵仗を稱（挙）げる者は斬らしむ。胡人は或は關を斬り、或は城を逾え而して出でる者は，勝げて數える可からず。（石閔が孫伏都を殺し、胡人は既に禍を予期して逃亡）
後趙［石閔の胡人・高鼻多鬚大虐殺］**閔**は尚書の**王簡**、少府の**王郁**をして衆數千を帥いて**鑒**を御龍觀に守り，食を懸けて以と之を給せ使む。城中に下令して曰く、
「近日**孫**、**劉**は逆を構え，支黨は誅に伏し，良善は一に預かる無し也。今日已後は，官と同心する者は留まれ，同じせざる者は各々之く所に任す。」
救して城門に復た相い禁じざらしむ。**(6-134p)** 是に於いて趙人（胡人に対して中国人の意）の百里內は悉く入城し，胡、羯の去る者は門に填つる。**閔**は胡之己の用に為らざるを知り，令を內外に班ず、
「趙人は一胡首を斬り鳳陽門に送る者は，文官は位三等を進め，武官は悉く牙門に拜せん。」
一日之中に，斬首は數萬。**閔**は親ら趙人を帥いて以て胡、羯を誅し，貴賤、男女、少長と無く皆な之を斬り，死者は二十餘萬，諸々は城外に尸とし，悉く野犬豺狼の食する所と為る。其の四方に屯戍する者は，**閔**は皆な書を以て趙人の將帥と為る者に命じて之を誅せしめ，或いは高鼻多鬚にして濫死する者は半ばなり。（胡羯は鼻高く髭多い者が多く、似た漢人でも殺された）
▲燕王の**雋**は遣使して凉州に至らしめ，**張重華**と約して共に趙を擊たんとす。
高句麗高句麗王の**釗**は前東夷護軍の**宋晃**（96 卷成帝咸康四年に高句麗に奔る）を燕に送り，燕王の**雋**は之を赦し，

名を更めて**活**と曰い，拝して中尉と為す。

孝宗穆皇帝上之下永和六年（庚戌，３５０年）

後趙［冉閔は自立するも諸勢力乱立す］春，正月，趙の大将軍の**閔**は**石氏**之迹を滅ぼし去らんと欲し，托するに讖文に「趙を繼ぐは李」と有るを以て，國號を更めて衛と曰い，姓を**李氏**に易え，大赦し，改元して青龍とす。太宰の**趙庶**、太尉の**張舉**、中軍將軍の**張春**、光祿大夫の**石岳**、撫軍將軍の**石寧**、武衛將軍の**張季**及ご公侯、卿、校、龍騰等萬餘人は，出でて襄國に奔り，汝陰王の**琨**は冀州（信都に治す）に奔る。撫軍將軍の**張沈**は溾口（溾水の口、河南省河北道臨漳県の西、現・邯鄲市臨漳県）に據り，**張賀度**は石濆（河南省河北道臨漳県、現・邯鄲市臨漳県）に據り，建義將軍（趙の独自）の**段勤**は黎陽（河南省河北道浚県、現・鶴壁市浚県の東）に據り，寧南將軍の**楊群**は桑壁に據り，**劉國**は陽城（繁陽城、河南省開封道臨潁県の西北、現・漯河市臨潁県）に據り，**段龕**は陳留に據り，**姚弋仲**は灄頭（直隷省大名道 棗強県、現・衡水市棗強県）に據り，**蒲洪**は枋頭に據り，衆は各々數萬にして，皆な**閔**に附かず。**勤**は，**末柸**之子、**龕**は，**蘭**之子也。

後趙**王朗**、**麻秋**は長安より洛陽に赴く。**秋**は**閔**の書を承け，**朗**の部の胡の千餘人を誅す。**朗**は襄國に奔る。**秋**は衆を帥いて鄴に歸る，**蒲洪**は其の子の龍驤將軍の**雄**をして迎撃せ使めて，之を獲り，以て軍師將軍と為す。

後趙汝陰王の**琨**及び**張舉**、**王朗**は衆七萬を帥いて鄴を伐ち，大將軍の**閔**は騎千餘を帥いて與に城北に戰う。**閔**は兩刃矛を操り，騎を馳せて之を撃ち，向かう所摧陷し，斬首は三千級，**琨**等は大いに敗れ而して去る。**閔**は**李農**と騎三萬を帥いて**張賀度**を石濆に討つ。

後趙［石閔は石鑒を誅殺］閏月（二月閏、元嘉暦では三月），衛主の**鑒**は密かに宦者を遣わして書を賚（もたら）して**張沈**等を召き，虚に乘りて鄴を襲わ使む。宦者は以て**閔**、**農**に告げ，**閔**、**農**は馳せて還り，**鑒**を廃し，之を殺し，幷せて趙主の**虎**の三十八孫を殺し，盡く**石氏**（石勒以来二主四子 24 年）を滅ぼす。**姚弋仲**の子の曜武將軍の**益**、武衛將軍の**若**は禁兵數千を帥いて關を斬りて灄頭に奔る。**弋仲**は衆を帥いて**閔**を討ち，混轎に軍す。

【冉魏成立、蒲洪自立】

冉魏［冉閔は遂に即位］司徒の**申鐘**等は尊號を**閔**（冉閔の字は永曾、魏郡の内黄の出身）に上り，**閔**は以て**李農**に讓り，(6-135p) **農**は固辭す。**閔**は曰く、

「吾が屬は故は晉人也，今晉室は猶ほ存し，諸君と州郡を分割し，各々牧、守、公、侯を稱し，奉表して晉の**天子**を迎えて洛陽に還都するを請うは，何如や？」

尚書の**胡睦**は進みて曰く、

「**陛下**の聖德は天に應じ，宜しく大位に登るべし，**晉氏**は衰微し，遠く江表に竄す，豈に能く英雄を總馭して，四海を混壹する乎！」

閔は曰く、

「**胡**尚書之言は，機を識りて命を知ると謂う可し矣。」

乃ち**皇帝**（冉閔の字は永曾、少字は棘奴）に即位し，大赦し，改元して永興とし，國號を大魏とす。

■［東晉は蒲洪勢力の取り込みを図る］朝廷は中原の大亂を聞き，復た進みて取るを謀る。己丑（１８日），揚州刺史の**殷浩**を以て中軍將軍、假節、都督揚、豫、徐、兗、青五州諸軍事と為し，**蒲洪**を以て氐

王、使持節、征北大將軍、都督河北諸軍事、冀州刺史、廣川郡公と為す。**蒲健**を假節、右將軍、監河北征討前鋒諸軍事、襄國公と為す。

■姚弋仲 蒲洪［蒲洪は苻氏に改名し自立へ］**姚弋仲**、**蒲洪**は各々關右に據る之志有り。**弋仲**は其の子の**襄**を遣わして衆五萬を帥いて**洪**を擊ち，**洪**は迎擊して，之を破り，斬獲するは三萬餘級。**洪**は自ら大都督、大將軍、大單于、三秦王と稱し，改姓して**苻氏**とす。南安の**雷弱兒**を以て輔國將軍と為す。安定の**梁櫂**を前將軍と為し，左長史を領せしむ。馮翊の**魚遵**を右將軍と為し，右長史を領せしむ。京兆の**段陵**を左將軍と為し，左司馬を領せしむ。**王墮**を右將軍と為し，右司馬を領せしむ。天水の**趙俱**、隴西の**牛夷**、北地の**辛牢**を皆な從事中郎と為す。氐酋の**毛貴**を單于の輔相と為す。

【慕容儁の怒濤の進擊】

▲［慕容儁の南方計略］二月（元嘉曆三月），燕王の**儁**は**慕容霸**をして兵二萬を將いて東道より徒河に出で使め，**慕輿于**は西道より蠻蛤塞に出で，**儁**は中道より盧龍塞に出で，以て趙を伐つ。**慕容恪**、**鮮于亮**を以て前驅と為し，**慕輿泥**に命じて山を槎（木を切る）り道を通ぜしむ。世子の**曄**を留めて龍城を守らしめ，內史の**劉斌**を以て大司農と為し，典書令の**皇甫真**と留めて後事を統べしむ。

▲**霸**の軍は三陘（直隸省津海道樂亭県、現・唐山市樂亭県）に至り，趙の征東將軍の**鄧恒**は惶怖し，倉庫を焚き，安樂（樂安に作るべき、奉天省遼瀋道遼陽県、現・遼陽市遼陽県）を弃てて遁げ去り，幽州刺史の**王午**と共に薊を保つ。徒河の南部都尉の**孫泳**は急に安樂に入り，餘火を撲滅し，其の穀帛を籍す。**霸**は安樂、北平の兵糧を收め，**儁**と臨渠（京兆三河県、現・廊坊市三河市）に會す。

▲［慕容儁は薊を取り都とす］三月（元嘉曆四月），燕兵は無終に至る。**王午**は其の將の**王佗**を留めて數千人を以て薊を守らしめ，**鄧恒**と走りて魯口（直隸省保定道饒陽県、現・衡水市饒陽県）を保つ。乙巳（５日），**儁**は薊を拔き，**王佗**を執り，之を斬る。**儁**は悉く其の士卒千餘人を坑せんと欲し，**慕容霸**は諫めて曰く、

「趙は暴虐を為し，**王**は師を興して之を伐ち，將に以て民を塗炭に拯い而して中州を撫有せんとする也。今始めて薊を得而して其の士卒を坑にすれば，恐らくは以て王師之先聲と為す可からざる也。」

乃ち之を釋く。**儁**は入りて薊を都とし，中州の士女の降る者は相い繼ぐ。燕兵は范陽に至り，范陽太守の**李産**は**石氏**の為に燕を拒まんと欲し，衆は用を為す莫し，乃ち八城（范陽郡の涿・良鄉・方城・長鄉・遒・胡安・范陽・容城の八県を統べる）の令長を帥いて出で降る。**儁**は復た**産**を以て太守と為す。

▲［李績の帰順遅からず］**産**の子の**績**（范陽の人）は幽州の別駕為り，其の家を弃てて**王午**に從いて魯口に在り。(6-136p) **鄧恒**は**午**に謂って曰く、

「**績**の鄉里は北に在り，父は已に燕に降り，今は此に在ると雖も，恐らくは終に相い保つは難く，徒らに人の累を為さん，之を去る（殺す）に如かず。」

午は曰く、

「此れは何の言なる也！夫れ當に今の喪亂を以て，而して**績**は乃ち能く義を立てて家を捐てる，情節之重きは，古の烈士と雖も以て過ぎる無し，乃ち猜嫌を以て之を害さんと欲するや？燕、趙之士は之を聞けば，我を直ちに相い聚まりて賊を為すのみ，了に意識無しと謂わん。衆情は一たび散ずれば，復た集める可からず，此れは坐して自ら屠潰を為す也。」

恒は乃ち止む。**午**は猶ほ諸將の己と同心せず，或いは非意（午の意に反して績を殺す事）を致さんを慮り，乃ち**績**を遣りて歸らしむ。**績**は始めて**午**を辭して往きて燕王の**儁**に見え，**儁**は之を讓めて曰く、

「卿は天命を識らず，父（続は職）を弃てて名を邀める，今日は乃ち始めて來たる邪！」

對えて曰く、
「臣は舊主を眷戀し，志は微節を存す，官身の在（続は委）る所，何(いずく)に事えるとも君に非ず！**殿下**は方に義を以て天下を取る，臣は未だ見(まみ)ゆるを得る之晩きを謂わざる也。」
儁は悦び，善く之を待つ。
▲**儁**は弟の**宜**を以て代郡の城郎（城主）と為し，**孫泳**を廣寧太守と為し，悉く幽州の郡縣の守宰を置く。
▲［慕容儁の鄧恒攻撃］甲子（２４日），**儁**は中部俟厘（続は俟釐、鮮卑の部帥の称）の**慕輿句**をして薊中の留事を督さ使め，自ら將いて**鄧恒**を魯口に撃つ。軍は清梁（直隷省保定道博野県、保定市博野県）に至り，**恒**の將の**鹿勃早**は數千人を將いて燕の營を夜襲し，半は已に入るを得，先ず前鋒都督の**慕容霸**を犯し，幕下に突入し，**霸**は起ちて奮撃し，手ずから十餘人を殺し，**早**は進む能わず。是に由りて燕軍は嚴（備）するを得，**儁**は**慕輿根**に謂って曰く、
「賊鋒は甚だ鋭なり，宜しく且く之を避くべし。」
根は正色して曰く、
「我は衆く彼は寡なし，力は相い敵せず，故に夜に乗りて來たりて戰う，萬に一つも利を獲らんと冀う。今賊を求めて賊を得たり，正に當に之を撃ち，復た何の疑う所あらん！**王**は但だ安臥し，臣等は自ら**王**の為に之を破らん！」
儁は自ら安ずる能わず，内史の**李洪**は**儁**に從いて營外に出て，高冢上に屯す。**根**は左右の精勇數百人を帥いて中牙（陣所）より直ちに前んで**早**を撃ち，**李洪**は徐に騎隊を整えて還りて之を助け，**早**は乃ち退き走る。衆軍は追撃すること四十餘里，**早**は僅かに身を以て免れ，從う所の士卒は死亡して略ぼ盡きる。**儁**は兵を引いて薊に還る。（慕容儁は鹿勃早に勢いを止められ撤退）

冉魏［魏主は姓を冉氏に戻す］魏主の**閔**は姓を**冉氏**に復し，母の**王氏**を尊びて皇太后と為し，妻の**董氏**を立てて皇后と為し，子の**智**を皇太子と為し，**胤、明、裕**（冉閔の三子）は皆な王と為す。**李農**を以て太宰と為し、太尉を領せしめ、尚書事を錄し，齊王に封じ，其の子は皆な縣公に封じる。使者を遣わして節を持して諸軍屯（張沈・蒲洪）を赦す，皆な從わず。
苻洪［苻洪は麻秋に毒殺され、苻健継承す］**麻秋**は**苻洪**を說いて曰く、
「**冉閔**、**石祇**は方に相い持ち，中原之亂は未だ平らぐ可くにあらざる也。(6-137p) 先ず關中を取るに如かず，基業は已に固まり，然る後に東に天下を爭えば，誰か能く之に敵せんや！」
洪は深く之を然りとす。既に而して**秋**は宴に因りて**洪**を鴆し，其の衆を幷せんと欲す。世子の**健**は**秋**を收め之を斬る。**洪**は**健**に謂って曰く、
「吾が未だ關に入らざる所以の者は，中州を定む可しと以(おも)爲えばなり。今不幸にして豎子の困しむ所と為る。中州は汝の兄弟の能く辦じる所に非ず，我死すれば，汝は急に關に入れ！」
言い終わり而して卒す。**健**は代わりて其の衆を統べ，乃ち大都督、大將軍、三秦王之號を去り，晉の官爵を稱し，其の叔父の**安**を遣わして來たりて喪を告げ，且つ朝命を請う。

【後趙の石祇の即位】

後趙［趙の石祇は即位、姚弋仲の優遇］趙の新興王の**祇**は襄國に於いて**皇帝**に即位し，改元して永守とす。汝陰王の**琨**を以て相國と為し，六夷（胡・羯・氐・羌・殪・巴蠻）の州郡に據る兵を擁する者は皆な之に應じる。**祇**は**姚弋仲**を以て右丞相、親趙王と為し，待（遇）するに殊禮を以てす。**弋仲**の子の**襄**は，雄勇に

して才略多く，士民は之を愛し，**弋仲**に請いて以て嗣と為さしめ，**弋仲**は**襄**が長子に非ざるを以て，許さず。請う者は日々に千數を以てし，**弋仲**は乃ち之をして兵を將いさ使む。**祗**は**襄**を以て驃騎將軍、豫州刺史、新昌公と為す。又た**苻健**を以て都督河南諸軍事、鎮南大將軍、開府儀同三司，兗州牧、略陽郡公と為す。**夏，四月**，趙主の**祗**は汝陰王の**琨**を遣わして兵十萬を將いて魏を伐たしむ。

冉魏魏主の**閔**は**李農**及び其の三子を殺し，尚書令の**王謨**、侍中の**王衍**、中常待の**嚴震**、**趙升**を幷（李農の勢力を吸収する）す。**閔**は遣使して江に臨みて晉に告げて曰く、

「逆胡は中原を亂すも，今已に之を誅す。能く共に討つ者は，軍を遣わして來たる可き也」。

朝廷は應じず。

■［東晉の袁真は魏の合肥を攻める］**五月**，廬江太守の**袁真**は魏の合肥を攻め，之に克ち，其の居民を虜とし而して還る。

後趙［後趙は冉魏を攻め敗退］**六月**，趙の汝陰王の**琨**は進みて邯鄲（現・河北省邯鄲市）に據り，鎮南將軍の**劉國**は繁陽（頓丘郡に属す、河南省開封道臨潁県、現・漯河市臨潁県）より之に會す。魏の衛將軍の**王泰**は**琨**を擊ち，大いに之を破り，死者は萬餘人。**劉國**は繁陽（頓丘郡の県、河南省開封道臨潁県、現・漯河市臨潁県）に還る。

▲［段龕は廣固で齊王を自称］初め，**段蘭**は令支（前巻康帝建元元年にあり）に卒し，**段龕**は代わりて其の衆を領し，**石氏**之亂に因り，部落を擁して南に徙る。（段龕は陳留より廣固に行く）**秋，七月**，**龕**は兵を引いて東に廣固（山東省膠東道益都県、現・濰坊市青州市）に據り，自ら齊王を稱す。

▲**八月**，代郡の人の**趙榼**は三百餘家を帥いて燕に叛し，趙の幷州刺史の**張平**に歸す。燕王の**儁**は廣寧、上穀の二郡の民を徐無（右北平に属す県、直隷省津海道遵化県、現・唐山市遵化市）に，代郡の民を凡城に徙す。（また反して趙に付くを恐れて移す）

【苻健は關中入りを果たす】

苻健［苻健は長安を目指して行動］**王朗**之長安を去る也，**朗**の司馬京兆の**杜洪**は長安に據り，自ら晉の征北將軍、雍州刺史を稱し，馮翊の**張琚**を以て司馬と為す。關西の夷、夏は皆な之に應ず。**苻健**は之を取らんと欲し，**洪**が之を知るを恐れ，乃ち趙の官爵（石祗の授ける所）を受ける。**趙俱**を以て河內太守と為し，（6-138p）溫（河內郡の県、河南省河北道溫県、現・焦作市溫県）に戍せしむ。**牛夷**を安集將軍と為し，懷（河內郡の県、河南省河北道武陟県、現・焦作市武陟県）に戍せしむ。宮室を枋頭に治め，民に課して麥を種えしめ，西にいく意無しを示し，知り而して種えざる者有れば，**健**は之を殺して以て徇（となえる）（広く告げる）う。既に而して自ら晉の征西大將軍、都督關中諸軍事、雍州刺史を稱す。武威の**賈玄碩**を以て左長史と為し，洛陽の**梁安**を長史と為し，**段純**を左司馬と為し，**辛牢**を右司馬と為し，京兆の**王魚**、安定の**程肱**、**胡文**等を軍咨祭酒と為し，衆を悉くして而して西にむかう。**魚遵**を以て前鋒と為し，行きて盟津に至り，浮梁（浮橋）を爲（つく）りて以て濟る。弟の輔國將軍の**雄**を遣わして衆五千を帥いて潼關より入り，兄の子の揚武將軍の**菁**をして衆七千を帥いて軹關より入らしむ。別れるに臨みて，**菁**の手を執りて曰く、

「若し事捷たざれば，汝は河北に死し，我は河南に死す，復た相い見ず。」

既に濟り，橋を焚き，自ら大衆を帥い**雄**に隨い而して進む。

杜洪［杜洪は苻健を迎撃、弟の杜郁は降る］**杜洪**は之を聞き，**健**に書を與えて，之を侮嫚す。**張琚**の弟の**先**を以て征虜將軍と為し，衆萬三千を帥いて潼關之北に逆え戰う。**先**の兵は大いに敗れ，走りて長安に還る。**洪**は悉く關中之衆を召して以て**健**を拒ぐ。**洪**の弟の**郁**は**洪**に**健**を迎えるを勸め，**洪**は從わず。**郁**は所部を帥いて**健**に降る。

苻健［苻健は周辺勢力を帰順させる］**健**は**苻雄**を遣わして渭北を徇えしむ。氐酋の**毛受**は高陵（陝西省關中道高陵県、現・西安市高陵区）に屯し，**徐磼**は好畤（陝西省關中道乾県、現・咸陽市乾県）に屯し，羌酋の**白犢**は黄白（黄白城）に屯し，衆は各々數萬，皆な**洪**の使いを斬り，子を遣わして**健**に降る。**苻菁**、**魚遵**の過ぎる所の城邑は，降附せざる無く。**洪**は懼れ，固く長安を守る。

冉魏［冉閔は張賀度らを撃退］**張賀度**、**段勤**、**劉國**、**靳豚**は昌城（直隷省大名道南樂県、現・河南省濮陽市南楽県）に會し，將に鄴を攻めんとす。魏主の**閔**は自ら將いて之を撃ち，蒼亭（山東省済寧道陽穀県、現・聊城市陽穀県）に戰い，**賀度**等は大いに敗れ，死者は二萬八千人，追いて**靳豚**を陰安（直隷省大名道清豊県、現・濮陽市清豊県）に斬り，盡く其の衆を俘にし而して歸る。**閔**の戎卒は三十餘萬，旌旗、鉦鼓は百餘里に綿亘し，**石氏**之盛んなると雖も，以て過ぎる無し也。

冉魏故の晉の散騎常侍の隴西の**辛謐**（しんひつ）は，高名有り，**劉**、**石**之世を歷て，徵辟され皆な就かず。**閔**は禮を備え徵して太常と為す。**謐**は**閔**に書を遣わし，以て爲す、

「物極まれば則ち反し，致（極）至れば則ち危うし。君王の功は已に成れり矣，宜しく茲（ここ）の大捷に因りて，身を晉朝に歸し，必ず**由**（許由）、**夷**（伯夷）之廉有り，**松**（赤松子）、**喬**（王子喬、仙人の名前）之壽を享けん矣。」

因りて食せず而して卒す。

▲［勃海の賈堅の弓矢の腕］九月，燕王の**儁**は南に冀州を徇え，章武、河間を取る。初め，勃海の**賈堅**，少くして氣節を尚（たっと）び，趙に仕えて殿中督と為る。趙の亡びるや，**堅**は魏主の**閔**を弃てて鄉里に還り，部曲數千家を擁す。燕の**慕容評**は勃海を徇え，遣使して之を招き，**堅**は終に降らず。**評**は與に戰い，之を擒とす。**儁**は**評**を以て章武（晉の武帝泰始元年に渤海を分けて章武国を置く）太守と為し，**裕**を封じて河間太守と為す。**儁**と**慕容恪**とは皆な**賈堅**之材を愛す。**堅**は時に年は六十餘り，**恪**は其の善く射るを聞き，（6-139p）牛を百步の上に置き以て之を試す。**堅**は曰く、

「少き之時は能く中（あた）らざら令む，今老いては矣，往往にして之に中たる。」

乃ち射て再び發し，一矢は脊を拂い，一矢は腹を磨し，皆な膚に附き毛を落とし，上下は一の如し，觀る者は咸な其の妙に服す。**儁**は**堅**を以て樂陵太守と為し，高城（漢より渤海郡に属す、直隷省津海道鹽山県、現・滄州市塩山県）に治せしむ。

前秦［苻健長駆長安に至る］**苻菁**は**張先**と渭北に戰い，之を擒とし，三輔の郡縣堡壁は皆な降る。冬，十月，**苻健**は長驅して長安に至り，**杜洪**、**張琚**は司竹（陝西省關中道盩厔県、現・西安市周至県）に奔る。

▲燕王の**儁**は薊に還り，諸將を留めて之を守らしむ；**儁**は龍城に還り，陵廟を謁す。

冉魏［冉閔の襄國攻め］十一月，魏主の**閔**は騎十萬を帥いて襄國を攻める。其の子の太原王の**胤**を署して大單于、驃騎大將軍と為し，降胡一千を以て之に配して麾下と為す。光祿大夫の**韋謏**（いそう）は諫めて曰く、

「胡、羯は皆な我之仇敵なり，今來たりて歸附するは，苟くも性命を存せんとする耳。萬一にも變と為れば，之を悔やんで何に及ばん！請う降胡を誅し屏けて，單于之號を去り，以て微を防ぎ漸を杜（ふせ）がん。」（直前に冉閔は胡人大虐殺を行っているのでこの発言になった）

閔は方に群胡を撫納せんと欲す，大いに怒り，**謏**及び其の子の**伯陽**を誅す。

前秦［苻健の長安入城と建康への報告］甲午（５８日?），**苻健**は長安に入り，民心は晉を思うを以て，乃

ち参軍の**杜山伯**を遣わして建康に詣りて捷を獻ぜしめ，幷びに**桓溫**と修好す。是に於いて秦、雍の夷夏は皆な之に附く。趙の涼州刺史の**石寧**は獨り上邽に據りて下らず，十二月，苻雄は擊ちて之を斬る。

■［蔡謨は司徒辞退の混乱、荀羨の収拾］**蔡謨**は司徒に除せられ，三年職に就かず。詔書は屢々下り，**太后**は遣使して意を諭すも，**謨**は終に受けず。是に於いて**帝**は軒に臨み，侍中の**紀據**、黄門郎の**丁纂**を遣わして**謨**を徵す。**謨**は疾篤しと陳べ，主簿の**謝攸**をして陳讓せ使む。旦より申に至り，使者は十餘返し，而して**謨**は至らず。時に**帝**は方に八歳，甚だ倦み，左右に問いて曰く、

「召す所の人は何を以て今に至るまで來ざらんや？軒に臨みて何の時にか當に竟らんや？」

太后は君臣倶に疲れるを以て，乃ち詔す、

「必ず來らざる者は，宜しく朝を罷むべし。」

中軍將軍の**殷浩**は吏部尚書の**江虨**の官を免ぜんと奏す。會稽王の**昱**は（尚書の）曹に令して曰く、

「**蔡公**は傲りて上命に違い，人臣之禮無し。若し**人主**が上に卑屈なれば，大義は下に行われず，亦た政を為す所以を知らず矣。」

公卿は乃ち奏す、

「**謨**は悖慢にして上に傲り，罪は不臣に同じく，廷尉に送りて以て刑書を正すを請う。」

謨は懼れ，子弟を帥いて素服して闕に詣りて稽顙し，自ら廷尉に到りて罪を待つ。**殷浩**は**謨**に大辟を加えんと欲す。會々徐州刺史の**荀羨**は入朝し，**浩**は以て**羨**に問う，**羨**は曰く、

「**蔡公**は今日事危うければ，**(6-140p)** 明日は必ず**桓**、**文**之舉有り。」（蔡謨が死ねば、兵を挙げる）

浩は乃ち止む。下詔して**謨**を免じて庶人と為す。

令和 3 年 3 月 2 日　翻訳開始　11009 文字
令和 3 年 3 月 12 日　翻訳終了　21269 文字　現代地名年表対応
令和 3 年 12 月 3 日　書下し終了　21968 文字